

薬粉防已の臨床効果. 第29回富山リウマチと免疫研究会, 2000, 11, 富山市.

- 22) 寺澤捷年: 勤労者メンタルヘルスと漢方. 第3回鹿島産業医学研修会, 2000, 11, 茨城.
- 23) 寺澤捷年: 耳鼻科領域における漢方. 第28回千葉東洋医学シンポジウム, 2000, 11, 千葉.
- 24) 寺澤捷年: 東西の融合で第三の医療を. 2000年それぞれのメッセージ, 北陸中日新聞, 2000, 11, 14.
- 25) 後藤博三: 証とは~処方を選択法~. 学術講演会, 2000, 11, 鹿児島.
- 26) 寺澤捷年: 耳鼻咽喉科疾患と漢方. 第13回富山県耳鼻咽喉科疾患研究会, 2000, 11, 富山市.
- 27) 萬谷直樹: 医療における漢方薬の活用について. 第1回漢方薬によるいきいき健康づくり講演会, 2000, 11, 大島村.
- 28) 貝沼茂三郎: 医療における漢方薬の活用について. 第2回漢方薬によるいきいき健康づくり講演会, 2000, 12, 大島村.
- 29) 小暮敏明: 慢性関節リウマチに対する補剤の応用. 第21回和漢薬研究所特別セミナー, 2000, 12, 富山市.
- 30) 小暮敏明: 現代医学で治りにくい病気「微熱と全身倦怠」. 週刊朝日増刊号漢方, 46-47, 2000.
- 31) 寺澤捷年: 生活習慣病に対する漢方方剤の臨床的有用性の客観的評価. 地域先導研究推進委員会, 2000, 10, 富山市.

人間科学・基礎看護学

基礎看護学研究室

教	授	高	間	静	子
講	師	塚	原	節	子
助	手	新	谷	恵	子
助	手	八	塚	美	樹

◆ 原 著

- 1) 塚原節子, 安部良, 高島佐知子: 定期受診の必要な慢性疾患で受診ノンコンプライアンス患者のソーシャルサポートに関する研究, 富山医科薬科大学看護学会誌 3(1), 123-128, 2000.
- 2) Tsukahara S., and Tanaka A.: Nurses' social skill related to job satisfaction. 富山医科薬科大学看護学会誌 3(1), 129-140, 2000.
- 3) 新谷恵子, 荒木節子, 高間静子: 人工透析患者のセルフケア度に影響する要因の研究, 富山医科薬科大学看護学会誌 3(1), 97-110, 2000.
- 4) 荒木節子, 新谷恵子, 高間静子: 看護学生の背景の違いによる日常生活におけるセルフケア度の比較, 富山医科薬科大学看護学会誌 3(1), 111-122, 2000.
- 5) 樋口香織, 塚原節子: 乳房切除患者に対する退院後のソーシャルサポート, 富山医科薬科大学看護学会誌 3(1), 35-44, 2000.
- 6) 小池 潤, 田澤賢次, 並川宏英, 伊藤佳代子, 八塚美樹, 安田智美, 小林祐子, 梶原陸子, 大上英夫, 斉藤智宏: 肝転移を抑制する漢方方剤における活性酸素消去能からみた特徴, 富山医科薬科大学看護学会誌 3(1), 135-160, 2000.

◆ 学会報告

- 1) 塚原節子, 高島佐知子: アトピー性皮膚炎患者の日常生活要因の分析と検討, 第26回日本看護研究学会学術集会, 2000, 7, 千葉.
- 2) 荒木節子, 新谷恵子, 高間静子: 看護学生の日常生活におけるセルフケア度の検討, 第26回日本看護研究学会学術集会, 2000, 7, 千葉.
- 3) 新谷恵子, 荒木節子, 高間静子: 人工透析患者のセルフケア度に影響する要因の追求, 第26回日本看護研究学会学術集会, 2000, 7, 千葉.
- 4) 小川幸恵, 高間静子: 生活習慣病危険因子に関わるHealth locus of control(HLC), Sense of coherence(SOC)を中心とした心理社会的因子についての構造的分析, 第26回日本看護研究学会学術集会, 2000, 7, 千葉.
- 5) 松島 瞳, 島 幹子, 金和みづほ, 伊東良子,

人間科学・基礎看護学

人間科学(1)研究室

教授 落合 宏

◆ 原 著

- 九十九由美子, 後藤みち子, 高間静子: 患者が表出した言葉から分析した看護婦の言動に対する不満の質の分析, 第26回日本看護研究学会学術集会, 2000, 7, 千葉.
- 6) 小澤明子, 高島佐知子, 高間静子: 病院面会患者の感染防御行動測定尺度の試み, 第26回日本看護研究学会学術集会, 2000, 7, 千葉.
- 7) 太田晴美, 白井由美子, 高田久美子, 猪山美保, 上山 信, 牧野昌美, 橋本喜久枝, 塚原節子: 当院医療従事者と患者およびその家族の介護保険制度の理解度の比較, 第26回日本看護研究学会学術集会, 2000, 7, 千葉.
- 8) 谷川静子, 保里恭子, 平崎弘美, 石 絹子, 西田美和子, 石田みどり, 塚原節子: 病室の窓から見える景色が患者の快・不快感情に与える影響, 第26回日本看護研究学会学術集会, 2000, 7, 千葉.
- 9) 八塚美樹, 高間静子: 子供の自立の発達過程についての文献的考察—健康な幼児における基本的生活の自立に焦点をあてて—, 第1回富山医科薬科大学看護学会学術集会, 2000, 10, 富山.
- 10) 新谷恵子, 高間静子: 糖尿病患者のセルフケア測定尺度作成の試み, 第1回富山医科薬科大学看護学会学術集会, 2000, 10, 富山.
- 11) 新谷恵子, 高間静子: 透析患者のセルフケアの発達過程, 第1回富山医科薬科大学看護学会学術集会, 2000, 10, 富山.
- 12) 高間静子, 新谷恵子: 健康成人のセルフケア測定尺度の作成の試み, 第20回日本看護科学学会学術集会, 2000, 12, 東京.
- 13) 塚原節子, 高島佐知子: 整形外科外来受診患者の受診決定時における意思決定規定要因に関する研究, 第20回日本看護科学学会学術集会, 2000, 12, 東京.
- 14) 新谷恵子, 高間静子: 人工透析患者のセルフケア尺度作成の試み, 第20回日本看護科学学会学術集会, 2000, 12, 東京.
- 1) Mantani N., Andoh T., Kawamata H., Terasawa K., and Ochiai H.: Inhibitory effect of *Ephedrae herba*, an oriental traditional medicine, on the growth of influenza A/PR/8 virus in MDCK cells. *Antiviral Res.*, 44 : 193-200, 1999. (昨年度未記載分)
- 2) Kogure T., Fujinaga H., Niizawa A., Le Xuan Hai, Shimada Y., Ochiai H., and Terasawa K.: Killer-cell inhibitory receptors, CD158a/b, are upregulated by interleukin-2, but not interferon- γ or interleukin-4. *Mediators of Inflammation*, 8 : 313-318, 1999. (昨年度未記載分)
- 3) Sakai S., Kawamata H., Mantani N., Kogure T., Shimada Y., Terasawa K., Sakai T., Imanishi N., and Ochiai H.: Therapeutic effect of anti-macrophage inflammatory protein 2 antibody on influenza virus-induced pneumo-nia in mice. *J. Virol.*, 74 : 2472-2476, 2000.
- 4) Kawamata H., Ochiai H., Mantani N., and Terasawa K.: Enhanced expression of inducible nitric oxide synthase by Juzen-Taiho-To in LPS-activated RAW264.7 cells, a murine macrophage cell line. *Am. J. Chinese Med.*, 28 : 217-226, 2000.
- 5) Kishimoto C., Kawamata H., Sakai S., Shinohara H., and Ochiai H.: Role of MIP-2 in coxsackievirus B3 myocarditis. *J. Mol. Cell Cardiol.*, 32 : 631-638, 2000.
- 6) Kishimoto C., Takamatsu N., Kawamata H., Shinohara H., and Ochiai H.: Immunoglobulin treatment ameliorates murine myocarditis associated with reduction of neurohumoral activity and improvement of extracellular matrix change. *J. Am. Coll. Cardiol.*, 36 : 1979-1984, 2000.
- 7) 高松奈美, 塚田トキエ, 今西信子, 三善郁代, 馬竹美穂, 落合 宏: ウイルス性心筋炎に対する免疫グロブリン療法—母子感染看護の視点から—. *富山医薬大看護学会誌*, 3 : 141-152, 2000.